

御遺族への御遺骨の返還に向けた戦没者の遺骨収集における七つの心得

先の大戦により海外で亡くなられた我が国の戦没者（沖縄、硫黄島を含む）は約240万人に及ぶが、いまだ異郷の地に多くの戦没者の御遺骨が残されている。

戦後70年を経て戦没者の御遺族が高齢化する中、一柱でも多くの戦没者の御遺骨を早期に御遺族に引き渡すことは重要な責務である。

遺骨収集に従事する者は、戦没者に対して敬意を払い、かつ、戦没者の御遺族の心情に思いをはせ、戦没者の御遺骨の尊厳をお守りした上で、使命感を持って、全力で遺骨収集事業に取り組む。

（基本理念）

- 1 遠い異郷の地に眠る戦没者や御遺骨の帰還を長年待つ御遺族の心情に寄り添い、責任と使命感を持って遺骨収集に臨むこと。
- 2 遺骨収集団の秩序と規律の下に行動すること。

（御遺骨及び検体の尊厳）

- 3 御遺骨及び検体に敬意を持ち、尊厳を損なわないよう丁重に扱うこと。

（御遺骨及び検体の安全管理）

- 4 御遺骨及び検体の安全管理の重要性について、常に認識を共有すること。
- 5 御遺骨及び検体は責任を持って管理すること。

（現地の人との円滑なコミュニケーション）

- 6 現地作業員に対し、御遺族の心情や御遺骨に対する思いを説明し、理解していただくよう努めること。
- 7 現地の文化や御遺骨への心情の違いを理解し、信頼関係の構築に努めること。